

究める!質の高い看護を実践するために

問合 市民病院経営企画課経営企画G ☎28-5151 内線2281

皆さんは「専門・認定看護師」という言葉を聞いたことがありますか。

「専門・認定看護師」とは、高度に専門分化していく医療現場において、水準の高い看護を実践できると認められた看護師のことです(日本看護協会認定資格)。

3回にわたり、津島市民病院で働いている認定看護師についてご紹介します。

認知症看護認定看護師



▲普段の生活について話している様子



▲認知症サポートチームカンファレンスの様子

令和2年、我が国で認知症を持つ人は約700万人いるとされており、高齢者の実に5人に1人は認知症を持つと言われていています。今後さらに高齢化率は上昇していくことが予測され、それに伴い認知症を持つ人の数も増えていきます。

認知症を持つ人は、入院に伴い、体の不調や治療に対するストレスに対応することが難しく、急激な環境の変化から混乱し、さらに認知機能の低下を招くことがあります。医師、薬剤師、作業療法士、医療相談員など多職種で構成された認知症サポートチームの活動として、そのような患者さんに対して、その人らしさを大切にケアや、安心安全な療養環境を整え、穏やかに入院生活が送れるよう支援しています。それに加えて、よりよい認知症ケアの検討やスタッフへのアドバイスも行っています。

認知症看護認定看護師の役割は、専門的な知識や技術を用いて、認知症を持つ人の尊厳を守ること、生活を調整すること、自己決定を支援すること、ご家族を支援することなどです。入院中は認知症の人が安心して治療を受けることができ、また、退院後にも認知症になってもできるだけ住み慣れた環境の中で「その人らしく」安心して暮らすことができるよう、認知症を持つ人やご家族に寄り添い、共に考え、支えています。

1980年代末にイギリスの臨床心理学者のトム・キットウッド氏によって「パーソンセンタードケア」が提唱されました。認知症を持つ人の「心理的ニーズ」を理解する上で

「一人の人間として無条件に尊重されること」を中心に、「共にあること」「くつろぎ」「自分らしさ」「結びつき」「たずさわること」という6つのことが重要であると考え、それを「花の絵」で表現し、その概念は近代の認知症ケアにも大きな影響を及ぼしました。

認知症を持つ人が「自分らしくありたい」「結びつきを持ちたい」など、自ら意思を明確に発することは難しいかもしれませんが、「なぜできないのか」「どうしてこちらの意にそぐわない言動があらわれるのか」を支援する側が理解し、相手の求めている「ニーズ」を理解することが、認知症ケアを行う上でも、パーソンセンタードケアを実践する上でも重要と考えます。

